

酸性土壌を改良して野菜の根の病気を防ぐ

要約

育苗土と圃場のpHを7.5程度に改良することで、アブラナ科野菜根こぶ病やメロンつる割病の被害を軽減できる技術を開発しました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

防除が難しい野菜類の根の病気を対象に、転炉スラグ（肥料登録のある石灰資材の一種で、作物の生育に必要なミネラルを豊富に含む）を用いて酸性土壌をアルカリ性土壌に改良することで、農薬による土壌消毒をせずに被害を軽減できる技術を開発します。

2. 内容

- ・転炉スラグ（商品名：てんろ石灰）を用いて、育苗土と圃場（深さ30cmまで）のpHを7.5程度に改良します。
- ・ブロッコリー・ハクサイ根こぶ病では、「こぶ」の量が減り、良品率が向上します。
- ・メロンつる割病では、発病する株を減らすことができます。

3. 活用等

転炉スラグで酸性土壌を改良するだけで、アブラナ科野菜根こぶ病やメロンつる割病被害を軽減できます。育苗土と圃場の転炉スラグの施用量は、土壌診断でわかります。



写真 根こぶ病に対する酸性土壌の改良効果
注) 右上：育苗土と圃場を改良（農薬無使用）。
下段：未改良（左：農薬無使用、右：農薬使用）。

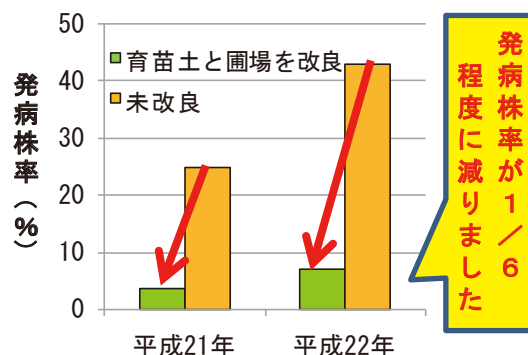


図 メロンつる割病に対する酸性土壌の改良効果

関連情報

- ・この技術を実践している現地のアブラナ科野菜栽培圃場では、1回の酸性土壌の改良でpH7.5程度を6年間（平成26年現在）維持し、同様に、メロン栽培圃場では4年間維持し、いずれも農薬による土壌消毒をせずに良品生産を続けています。
- ・詳細については、指導参考資料（平成22、23年度）を参照してください。
<http://www.applenet.jp/~nouken/promote/>

農林総合研究所 病虫部

Tel. 0172-52-4314

E-mail nou_souken@aomori-itc.or.jp

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

